



「循環バス」
君が思うよりずっと より狡猾

たぶんひとりでも平気だ
た
だ
い
ま
ありきたりの毎日に
僕もいる 僕が暮らす
暗闇の世界にも似た暗闇ではない
バスは変わらない景色の園道を超えて
また人の波が見えるところまで戻ってきた
僕もいる 僕が暮らす
暗闇の世界にも似た暗闇ではない

借りたものとかもらったものとか
手許に置いておきたいもの全部
君が僕のところで感む本とか
見でそのままになつてた映画とか
なんかそんなのを返すために
今日は君のどこかに行つた
僕の顔を見ても君はぜんぜん人とも思わぬみたいで
僕の手から荷物を受けとる
一言も話さずに扉を閉めた
そのまま僕のちっぽけな日常も終わってしまった

ただいま
かぎを開けてひとり家に入る
冷蔵庫の音
閉めおすれたまどから入る風
今日もなにも言わないロボット
「ただいま。さみしくなかった？
ぼくがいるからもう大丈夫だからね」
そんなふうにだれも聞いてないような
こと言つて
さみしいのはきつとぼくのほうだ
ともだちたつてそんなにいるわけじゃ
ないし
電車にのつて学校に行つてるから
帰りにともだちの家に遊びに行つて
とか
そんなことかんだんにはできないし

むずかしいな
べたりとロボットの横にすわつて
冷たさがわかるようにくつついて
そつと手をつなぐ
「もし動けるようになったらいつしよ
に遊ぼうよ」
ほんの少しどこかが青く光つたような
気がする
体温と同じになるくらいいつしよにい
たら
おかあさんが帰つてくる前に宿題さま
せなまや

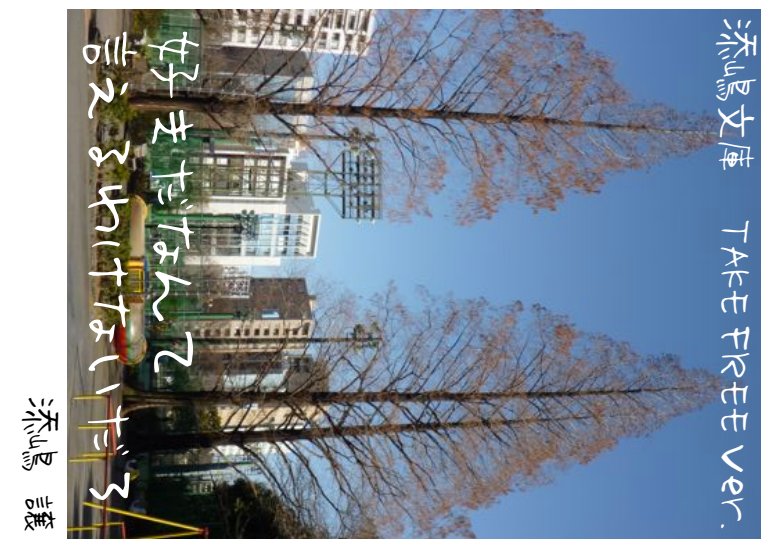


右ページ: 「10 years after」
LU

「星の彼方から」
地球から遠く離れたここで僕は
一人になつてしまつた。
片道切符で来た四人いた仲間たちは
みんな星になつた。
いつ来るかわからない移民のために
僕は一人で機械を直し、
コロニーをつくり、
植物を殖え、大地を走る。
川のないところに水を通し、
日陰のないところに木を茂らせる。
君に会いたい。君に会いたい。
始めからわかつていたことだつた。
二度と君に会えなくなることは
彼と一緒にいるところを見て僕は
すべてを諦めることにした
いつかこの星が快適になつて、
笑顔で
君を迎えられるくらいになつたら
彼と君と、おそろくいるはずの
君の家族を呼ぶつもりだつた
僕はここでどうなるんだろう
このままここで死ぬんだろうか
君に会いたい。会つてすぐに
君に会いたい。会つてすぐに
僕は何度も空を見上げる
変化のない空
日があたれば暑いだけの
日がなければ寒いだけの
君と歩いた時にあつた雪も
初めて二人並んだ雨も
もう、
どんなだつたか忘れてしまつたよ

毎日決まつた時間に
地球に向けて報告をする
いつも返事はない。
そんなの最初から期待してない。
ただいつか
君に僕の言葉が伝わりますように
それだけを望んで今日あつたこと、
明日すること、将来の夢、
仲間がほしいこと、寂しいこと、
ほんの少しのうそ、
家族のこと、
戻してきた父さんと母さん
それからいまでも好きなき君のことを
書きつつつて
地球に送るよ。
君に会いたい。君に会いたい。
会つて今すぐ君を抱きしめたい。
元気ですか。
君は幸せに暮らしていますか。
僕は今日も遠く離れた惑星でひとり、
大地を切り開き、
コロニーをつくり、
壊れた機械を直し、
いつでも君たちがここに
これるように準備しています。
君はここが見えますか。
僕の姿が見えますか。
僕は毎日望遠鏡をのぞいて
君の住む街を探しています。
君に会いたい。君に会いたいです。
君が幸せに暮らしていることを
確かめたら、
このまま星になつてもいいです。

(本編未掲載作品)



添嶋 護



添嶋 護
一人文芸エッセイ「空想少年はチ
キスト文学」の夢を見るか?」の
中の人。普段は動くお父さん。
このペーパーについて
掲載されている文章は「Troye
arsafter」君が思うよ
りもずっと「から抜粋したもの
す(おまけつき)。
マゾニア展、文学フリの他、フ
マゾニアにて販
売しております
す。詳しくはサ
トまで。
添嶋文庫「好きだからって言えるわけないです」
2014/1/16 初版
発行 空想少年はチキスト文学の夢を見るか?
http://literary-acelitter.jp
本はAmazonでもご購入いただけます。詳しくはサトまで。